



# JACKbook





# 参加経験者のプログラム

日中韓子ども童話交流参加経験者交流会は、大学年齢に達した交流会の参加経験者を集め思い出を語り合うと共に、未来へと繋がる3カ国の交流プランを考えることを目的とした事業として2010年に始まった。2002年に日中韓子ども童話交流事業がスタートし、参加者経験者は現在延べ約1000人に達している。

今年度の参加経験者交流会は8月17日から23日の7日間、東京のオリンピックセンターと新潟県の越後湯沢で行われた。今年度のテーマは「<sup>みのり</sup>実」。これまでの参加経験者交流会の中で積み上げてきたものを受け止め、今自分たちができることは何か、参加経験者22名(日本10名、中国4名、韓国8名)が、意見を交わした。

8/17	<b>オリンピックセンターに 参加者全員が集合</b>	到着すると部屋には小学生の時に描いた絵本の原本が!自分の描いた絵本と数年ぶりの再会。一緒に絵本を作った友達を見つけ盛り上がる姿も。 今回のプログラムを進行して下さるファシリテーターの方々も交えた自己紹介をしてこの日は各自の部屋へ。
8/18	<b>平田オリザ先生の講演 「協働と創造へのヒント」</b>  <b>未来交流ワーク① 「思い出そう!」</b>  <b>夜は結団式と歓迎夕食会</b>	講演会を通して私たちが言語や文化の差を抱えながらいかに交流するか、実際に世界各地で演劇の活動をされている先生からのお話、考えさせられることが多かった。  今までの交流会で出た考えを共有したのち、今回の交流会が終わる日、3年後、5年後の未来を思い描いた。 自分はどんな姿になっているか、今回出会った仲間たちは、参加経験者交流会はどうなっているだろうか、さらに自国や東アジア全体の未来について自由な夢を発表し合った。  お話をいただきこれから始まる交流会に身の引き締まる思い。歓迎夕食会ではKONISHIKIさんのコンサートで小学生に負けずはしゃぐ姿も…。
8/19	<b>東京から新潟に移動</b>	奥只見湖の見学を通してさらに仲が深まり、積極的にコミュニケーションを取れるように。 夜は地域の伝統芸能御実城太鼓・御実城囃子の鑑賞と宇宙飛行士秋山先生の講演「宇宙と農業～実りとは何か～」を聞く。
8/20	<b>収穫体験とBBQ</b>  <b>未来交流ワーク② 「確かめよう!」</b>	これから始まる長時間のワークショップに備え、小学生と共に野菜の収穫体験&バーベキューで、英気を養う。  日本人参加経験者同窓会が今年発足し、どのような活動を行っているかについての発表。まだ組織として未熟ではあるが、中韓の活動の参考になれば、という考えのもと行われた。各国の随員の先生方にも聞いていただくことができた。 次に、どのような交流を目指すかという枠組みの構想をグループに分かれてまとめ、発表した。その意見をもとに、具体的取るべき行動を個人で出し合った。 その結果「組織作り」「広報」「企画」の3つの班に分かれ、活動を開始。

8/21	<b>未来交流ワーク③ 「未来を描こう!」</b> <b>未来交流ワーク④ 「風をおこそう!」</b>	次の日に控えたプレゼンテーションのためにその資料などを各班に分かれて製作。通訳の方のご協力のもと、細かな意思の確認や内容の翻訳などを行っていく。次第に英語やそれぞれが習得した言語を用いて直接想いを共有するようになった。
8/22	<b>アルプの里</b>  <b>「未来交流プラン」 プレゼンテーション</b>  <b>反省会</b>	ロープウェイに乗ってリフレッシュ。ジェラートを食べたり、動物と触れ合ったり、お土産を買ったりと思いに楽しむ。  一週間の交流の成果を報告すべく、主催者の伊藤忠彦先生を始め、随員の先生方をお招きしてのプレゼンテーション。緊張の時であったが、私たちの描く交流プランを聞いていただき、さらに賛同していただくことができ、大きな自信と達成感を得る。  楽しかった日々はあっという間である。夜行った反省会では、迫り来る別れの時を惜しみ涙も見られた。自分たちの思い描いた未来を実現させること、それはすなわち再会を意味する。その日を信じて、一週間の活動は幕を閉じた。
8/23	<b>小学生の参加者に向けての プレゼンテーション</b>  <b>解散式</b>	私たちが共通で抱いていた「小学生のころ築いた友情を絶やすことなく、関係を続けてほしい」という想いを伝えるべく、自分たちが一週間、その実現のためにどのような活動をしてきたかを発表した。また、交流の助けになると考えて作った資料も参加者全員に渡すことができたので、ぜひ今後の交流に役立ててほしいと考えている。  小学生の時と同様「今日の日さようなら」を歌って別れのときを迎えた。国ごとに分かれてそれぞれのバスに乗り込む私たちには笑顔があった。再会を誓ったことが、大きな心の支えとなっていた。

## 今回ご講演いただいた講師の先生方

平田オリザ先生(劇作家・演出家)(参加経験者のみ)

日本を代表する現代演劇家で、劇団「青年団」を主宰。「現代口語演劇」「ロボット演劇」等の新しい試み、演劇を教育に活かすワークショップ、韓国・中国・フランスなど海外との合同公演に意欲的に取り組んでいる。16歳のとき自転車で世界一周に挑み26カ国を走破。韓国・延世大学へ留学経験あり。著書に「わかりあえないことから～コミュニケーション能力とは何か」など。

秋山豊寛先生(ジャーナリスト・宇宙飛行士)

TBS(東京放送)でワシントン支局長や国際ニュースセンター長などを務める。1990年、ソ連の宇宙船ソユーズに乗り込み、日本人として初めて宇宙へ。宇宙ステーション・ミールから生中継を行う。1995年にTBSを退社し、農業に取り組んでいる。現在京都造形芸術大学教授として、農業の指導をはじめ、メディア論、国際情勢論を講義。著書に「鎌と宇宙船」などがある。



## Before and After

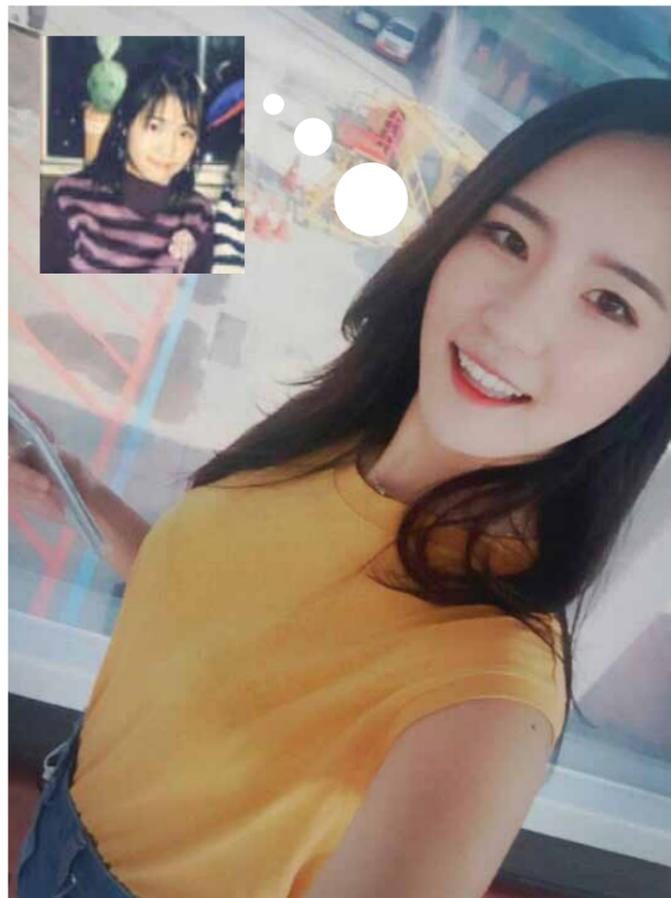
### キム ジェ ユン

アンニョンハセヨ！私は韓国外国語大学で中国語中国語文化を専攻しているキム ジェユンです。私は 2005 年、韓中日子ども童話交流を通じて、中国、日本の友達と付き合い、お互いの違う文化を学ぶことにより東アジアの目を広げる事が出来ました。その後、東アジアへ関心を持つことになり、特に中国への関心が高まり、中国語の勉強を始めました。10 年経った今、私は中国文化を知る事が出来、熱心に勉強した中国語力により 2015 年第 3 回 OB 参加者交流会で中国の友達ともっと親しくなることが出来ました。中国語で発表もしたり、中国の友達と韓国の友達の間で通訳の役割も出来ました。私が習ったものを通じて、その国の友達と意思疎通ができたことに大きなやりがい感じ、胸いっぱいでした。10 年前、小学校 4 年生だった私が成長して、こんな役割が出来るとは想像もつきませんでした。私は今、中国の文化と中国語を勉強するのが大好きです。このように私に感動を与え、私をここまで成長させてくれた韓中日子ども童話交流は私にとっての幸せと言えるでしょ！



### ビョンジャ ヨン

アンニョンハセヨ！私は韓国の国立忠南大学校の新素材工学科に在学中であるビョンジャ ヨンです。私は韓国で生まれ、小学校の時まで、日本人に出会う機会はありませんでした。2005 年、韓中日子ども童話交流に参加し、日本、中国の友達と一緒に生活したり、童話本を作りながら彼らと多くの時間を過ごすことが出来ました。その時間を通じて、他国の友達と親しくなったものの言葉の壁にぶつかり、親しくするには限界があることを感じました。その後韓国に戻って、日本語の勉強をして、日本の友達と仲良くなることを考えました。それから日本語の勉強を始め、第 3 回 OB 参加者交流会で日本の友達と自由に意思疎通が出来ました。お陰で彼らともっと親しくなることも出来、一層文化の共有も出来ました。交流会が終わった後も、引き続き友達と連絡が出来て、大変良かったです。これからも継続して、韓中日友達が今の関係を続け、友好関係を維持し、お互いの文化を理解して行くことが出来れば嬉しいと思います。



## インタビュー

2005 年、日中韓子ども童話交流に参加して同じグループで絵本を作ったメンバーが、2015 年 8 月に参加経験者交流会で再会を果たしました。そんな 10 年ぶりに再会した 3 人にインタビューをしました。



MAYU

MAYU

Q：(10 年ぶりの再会を果たした)今、お気持ちはどうですか？

A：大変嬉しいです。また会えるって思いもしなかったです。(10 年前と一緒に絵本を作った)彼女に再会できた時には時間が止まったかと思いました。

Q：この事業に参加して学んだことは何ですか？

A：中国と韓国、日本に関してよく知らなかったですが知る必要性を感じました。

Q：2005 年と 2015 年の友人たちへの感想は何か変わっていますか？

A：2005 年の時は(ジホンは)私より大人しかったと思います。絵を描くのも上手で話もよく聞いてくれました。2015 年に再会したジホンは私を覚えてくれていてうれしかったです。私はその当時の記憶が薄かったですがジホンは私がゲームを教えたり、日本語を教えたりしたことまでしっかりと覚えていて、びっくりしました。

Tian Mowei

Q：(10 年ぶりの再会を果たした)今の感想はどうですか？

A：(参加経験者交流会に)来る前は興奮していました。来てからは 10 年前の友達に再会できてうれしかったです。ジホン、まゆ、あきなど、、、ここで友達に会えるとは考えもできなかったのに会えたのは、神様のおかげです。今回の経験は私にとっては大変貴重です。

Q：なぜ再び(この事業に)参加することにしましたか？

A：友達と会うことと、韓国と日本の異文化を習うために来ました。

Q：2005 年と 2015 年の友達に関する考えは何か変わっていましたか？

A：10 年前のジホンは背が高かったです。3 名の韓国の女子の中からジホンだけ覚えてます。今もやはり、背が高いと思います(笑)そして、討論の時に考えを出したり、賢いと思います。最後に私がプレゼントをした時には、友達を連れてきてありがとうと言われて、礼儀正しい子だと思いました。



Tian Mowei

ジホン

Q：(10 年ぶりの再会を果たした)今の感想はどうですか？

A：感動してますよ！(2005 年に参加した時)同じグループの 5 名がまた会えたのは縁だと思いますよ。特にまゆに会った時にはすぐわかりました。あとでまゆに聞いてみたらまゆもすぐわかったそうです。

Q：なぜ再び(この事業に)参加することにしましたか？

A：日本にまた来たかったからです。そして、(2005 年に参加した時の)思い出を追いかけて参りました。

Q2005 年と 2015 年の友達に関する考えは何か変わっていましたか？

A：10 年前は正直帰国後の持続的な交流は考えられなかったです。でも今は本当に友達と感じています。そして、(今回の参加経験者交流会で)成熟して再会したような感じです。みんながその当時のままのような気がします。





日中韓子ども童話交流  
参加経験者交流会

フォト  
アルバム



8月17日～23日  
@東京・新潟



